



福田 匡史 栃木支部 副支部長

身近にこういう施設があることを初めて知りました。
もっとたくさんの方に知ってもらえたらいいですね。

今回は栃木支部・副支部長の福田匡史選手に、地域の中小企業を中心に技術支援を行っている栃木県産業技術センターを訪ねていただきました。競輪補助事業で導入された機器の見学や説明を受けての感想、また支部についてのお話などを伺いました。

競輪つてこんなこと やっつているんだ!!

神山雄二郎を中心に良い形を作りたい。
もっと特別競輪に出られるような人材が
増えてくれれば。

——まずは施設を見学されての印象は
いかがですか。

「こんな近くにこういう施設があることを全く知らなかったので、ちょっとびっくりしました。勉強不足かも知れないんですけど、実際競輪の売り上げがどんなふうに使われているかよく分かっていたいなかっただというのを感じましたね。出来ればこの施設ももっとたくさんの方に知ってもらえたらいいなと思います」

——補助事業に対してはどんな思いを
持たれましたか。

「例えば検診車とかについている競輪のマークも、自分たちはすぐに『あれは競輪の補助事業だ』と分かりますけど、一般の方が見た場合どうなんだろうとは思いますが、むしろストレートに『競

輪』と書いてあったほうが分かりやすいのかなっていうのはありますよね」

——栃木支部についてですが、現在の雰囲気などは？

「以前に比べると人数はかなり少なくなってきましたけど、それでもベテランから若手まで本当に頑張っていますし、練習も皆で一緒にバンクでやったりして、いい雰囲気だとは思っています」

——支部で行っている社会貢献活動やファンサービスなどはありますか。

「毎年12月には知的障害者施設を慰問して、餅つきをやったり。これはもうずいぶん前から続いていますね。競輪場内でのファンサービスは雁部護支部長が中心になって選手のトークショーを開いたりしています」

——副支部長の福田選手が考える、栃木支部のこれからは？

「やっぱり神山雄二郎というあれだけのすごい選手が身近にいるわけですから、もっともって特別競輪に行けるような人材が増えて行ってくればいいなと思いますね。いとこの拓弥も刺激されて頑張っているし、本当に雄二郎がリーダーシップを取るような感じで周りも一緒にやっつていけば、すごくいい形になるんじゃないかと思うんですけど」

——福田選手自身の今後の目標も聞かせて下さい。

「僕の個人的な目標は、やっぱり一日でも長く選手をやることですね」

——お兄さんの陽生選手、祐治選手、弟さんの篤司選手も頑張っていますし、福田4兄弟はまだまだ健在ですね！

「僕が先に辞めるわけにいかないですよ（笑）。今、甥っ子が100回生で競輪学校にいますので、それも楽しみなんですけど」

——最後にファンの皆さんにメッセージをお願いします。

「まだ競輪を観たことがないという方も、まずは度でもいいから観てもらって、スピードと迫力を感じていただけたらと思います」